

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

おおづ

5

MAY 2019



Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2019 5

発行・編集 ■大津市・総務課
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 ■ホー印刷株式会社
〒869-0001 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111

UD FONT
易やすく読みまちがえにくい
コンピューターフォント
を採用しています。

Clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人



阿蘇熊本復興陶芸家の会の皆さんとの一枚
【登り窯に入れる薪の量やタイミングによって
窯の温度が大きく左右されるため、薪の入れ
方ひとつでも技術が必要。窯元の皆さんの熟
練の技術が光る。
【登り窯とは…窯が斜面上に作られ、焼成室
がいくつか区切られている。薪を燃料とし、
焼成が難しいため結果が不安定である】



「窯の前でできあがりをゆっくり待つ 私たちの大切な時間です」

こんどう 近藤 せいでん 聖傳さん あきこ 昭子さん (真木)

勢いよく立ち上がる煙と1200度にも達する窯。近づくことさえできないほどの熱さに表情変えず薪を入れ続ける近藤聖傳さん、昭子さん夫婦。これまで多くの焼き物を生み出してきた近藤さんご夫婦をクローズアップする。

福岡県で生まれた聖傳さん。幼い頃からモノづくりが好きだった。学生の時にはデザインを専攻。「何百年、何千年と形に残る仕事したい」と、陶芸の道を選んだ。

矢護川地区にある円満寺で住職をしていた父と一緒に敷地内に窯を作り、陶芸を始めたが「煙の問題があって続けるのは難しい。近所に迷惑はかけられない」と真木地区に移り住み、登り窯を作って再始動することにした。

窯に使う大量の薪は、枝落としなどで処分困った人などから譲ってもらい、地域とのつながりを大切に作っている。子どもたちへの陶芸体験学習やつじ祭りへの出展など地域活動にも取り組んでいるのもその一環。

熊本地震では、毎年5月上旬に開かれる展示会の準備をしていたが本震で窯の天井が崩れ、軽トラック3台分の作品を処分した。地域の人や友人などに手伝ってもらい窯を再建することができたのはうれしかったという。

また、新しいつながりもできた。被災した8つの窯元と「阿蘇熊本復興陶芸家の会」を結成。地震以降、合同で作品製作や展示会を定期的に開催している。「今まで交流が無かった人たちとも地震をきっかけに知り合い、助け合うことができました」と顔がほころぶ。

「モノづくりが好きで40年。飽きません」と聖傳さん。理想の作品を作るのは本当に難しい。同じ工程でも1000作れば1000の別の作品ができるほど、陶芸は奥が深いという。

「目の届かない窯の中で完成する作品たち。最後は窯の前で祈るしかないけれど、その時間がわくわくするので好き」と昭子さん。

「手にした作品がその人の日常の一部になってくれたら」ふたりの陶芸への思いはこれからも作品を通してつながっていく。

今月のみどころ 平成31年度 施政方針 平成31年度 町の予算

今月の表紙

4月9日、大津北小学校で行われた入学式が終わったあとの1枚。個性溢れる新1年生たちは緊張しながらも少し大人になったような表情もみせてくれました。新1年生の皆さん。ご入学おめでとうございます(記事は12頁)

からいもくん便り

大津町総合情報メール

携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

ついでの声

▼今月から広報の作成に携わらせていただくことになりました。入行1年目で勉強の毎日ですが、広報作成のため取材に行かせていただく度に人の温かさを感じています。これからもいろいろなお話を聞かせていただいて、町民の皆さんに発行日を心待ちにしていただけのような広報を目指していきたいと思えます。

(暁)

▼地元大津の広報が大好きで、毎月の発行を楽しみにしている読者の一人でした。そんな私がまさか広報を作る立場になるなんて...と驚きました。これから、皆様へ分りやすく、大津のことをもっと好きになっていただける情報誌の作成を目指して頑張ります。(望)